

幸消防団

だより

第 62 号

発行 平成 30 年 7 月

川崎市幸消防団

団 長 高橋 克明

団長挨拶

川崎市幸消防団

団長 高橋 克明



五月十三日、第四十六回幸消防団操法大会を開催したところ、御来賓の皆様を始め、地域の皆様、消防関係団体の皆様など、多数の御臨席を賜りまして、厚く御礼申し上げます。また、出場隊員を陰で支えてこられました同僚、御家族の皆様にも、これまでの御苦勞に対しまして、心から感謝申し上げます。

本大会では、以前から交流のある東京都矢口消防団の皆様にも、ポンプ操法演技を披露していただきました。特に、男性団員に展示いただいた「増加操法」は新鮮で興味深く、また、とても勉強になりました。この場をお借りして重ねて御礼申し上げます。

五月十三日、第四十六回幸消防団操法大会を開催したところ、御来賓の皆様を始め、地域の皆様、消防関係団体の皆様など、多数の御臨席を賜りまして、厚く御礼申し上げます。また、出場隊員を陰で支えてこられました同僚、御家族の皆様にも、これまでの御苦勞に対しまして、心から感謝申し上げます。

二十四日に実施された川崎市大会へ出場し、第二分団が第三位の優良賞、第三分団も第八位と、市民の皆様へ幸消防団の操法技術の高さをお見せすることが出来たものと思っております。出場隊員の皆様は大変にお疲れ様でした。

六月十八日に関西地方で最大震度六弱の大阪府北部地震が発生いたしました。現時点では死者四名、負傷者四百二十八名、火災七件が発生した大きな災害となりました。

東日本大震災から七年が経過し、当時の記憶が風化されつつある中、地域防災力の中核となる消防団の役割を再確認する必要があると感じています。

幸消防団はこれからも、区民皆様の生命と財産を守るために、より一層の充実強化に努めてまいります。

署長就任挨拶

川崎市幸消防署

署長 田中 信一



四月一日付けで、幸消防署長に就任いたしました田中 信一です。

伝統ある組織を担う重責を痛感いたしますと共に大変、身の引き締まる思いでございます。もとより微力の身ではございますが、幸消防のこれまでの輝かしい歴史に恥じないよう、誠心誠意、最善を尽くす所存でございますので、よろしくお願い致します。

高橋消防団長をはじめ消防団の皆様におかれましては、地域防災の一躍を担い、署と団が一体となった活動を展開するとともに、長年にわたり献身的に防火防災業務に従事された御尽力と御苦勞に対し、心から感謝申し上げます。

さて、今年に入り三月までに、幸消防署管内では、三件の炎上火災が発生して結びになりますが、関係各位、消防団員及び御家族の皆様のおます御健康と御多幸を祈念して挨拶いたします。

おり、消防団の皆様には、消防署と一体となった活動をしていただき、被害の軽減に努められ成果があったと聞いております。今後も消防署といたしましては、消防団との連携をより一層深めながら、現場活動ができるように、消防隊との合同訓練や研修等を実施し、連携した消防活動の向上に取り組んでまいりたいと考えております。

近年、消防団に対する期待は大変大きいものがありますが、その期待どおりの評価が地域の皆様から得ておりますことは、先日の消防団のポンプ操法大会をはじめ、日ごろの訓練や火災予防への啓発活動、災害発生時の現場での活動などを直接目で見て、肌で感じている評価だと思います。どうか今後とも従来に増して御尽力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、幸区民の皆様方の負託に応えるべく、消防団と消防署が一致団結して防火防災業務に邁進することをお誓い申し上げます。

消防団 隣保共助
三原則 郷土愛護
犠牲奉公

第四十六回 幸消防団ポンプ操法大会

平成三十年五月十三日(日)に河原町グラウンドにおいて「第四十六回幸消防団ポンプ操法大会」が盛大に開催されました。本大会は、隔年で開かれる川崎市大会への出場権を懸けた大会となるため、各分団代表選手の熱意は凄まじいものとなりました。

結果は、【優勝】第二分団【準優勝】第三分団【敢闘賞】第一分団、第四分団で、第二分団は三連覇を飾りました。

優勝した第二分団の中村分団長は「今大会は、全分団の士気が高く、団員全員

が消防技術の向上に努めることの必要性を、改めて強く意識出来た大会であった。」と、近年の大会のレベルの高さを感じていた様子。また、「更なる技術と士気の向上を目指してまいる所存です。」と、三連覇という結果に満足することなく、川崎市大会へ向けた意気込みを語っていました。

第二分団と第三分団は、六月二十四日に開催された川崎市消防団操法大会へ、幸消防団の代表として出場しました。(詳細は本誌3ページ)

祝三連覇 第二分団おめでとう!

各分団大会出場選手のコメント

【第一分団 団員 太田篤志】

連日の訓練で器具の操作、団員との連携技術が向上したように感じ、火災現場で役に立てたいと思います。

【第二分団 団員 吉岡徹】

技術を向上させていくことの難しさを改めて感じた訓練と、いつもも増して緊迫感のある大会でした。

【第三分団 班長 塩田真】

これからも頑張りますが、新しい方々に道を譲れるよう、新入団員の勧誘と教育にも励みたいと思います。

準優勝は第三分団



【第一分団 分団長 細谷三康】

今大会は、ここ数年で一番多く訓練日を設定し、選手たちも一生懸命訓練に励んでくれました。残念な結果でしたが、訓練を通じて、第一分団はさらに団結出来たと感じています。来年は皆様の期待に応えられるように頑張ります。

【第四分団 分団長 村石勉】

昨年と同様に男性団員と女性団員の混成チームで望むことになりました。現在、当分団の団員はサラリーマンを中心とする団員構成に変化しており平日は消防団活動が制約される場面もありますが女性団員が操法訓練を通じて消火活動の基本を学び、地域防災の新たな守り手として成長する姿を期待しております。

準優勝の第三分団は四年振りの市大会進出となる。第三分団首藤分団長は「各団員については、勤務先から直接訓練に参加する者や、早くに来て資機材の設定や訓練準備をする者も居て、選手だけでなく分団として、毎回遅くまで訓練をしてきた結果が準優勝という形になったのだと思います。市大会出場が決定した時は驚きと戸惑いの気持ちもありましたが、良い成績を残せるように頑張ってもらいたい。」とコメント。

【第四分団 団員 村石泰一】

操法の基礎動作、節度を重視して訓練し、実際の火災又は操法大会で活躍できる様にしました。結果は奮わなかったですが、今後これを糧に成長したいです。



第3分団



第1分団



第4分団



第2分団



女性消防団員も活躍

女性消防団員によるポンプ操法演技も披露され、大会をおおいに盛り上げてくれました。



今回初めて選手として大会に参加させていただき、多くの経験をすることが出来ました。訓練をするにあたり、多くの方々の支えがあり団員としても成長することが出来たことに心から感謝しています。

これからも幸消防団の一員として、より一層精進いたしますので、ご指導宜しくお願い致します。

第三分団 団員 宮島紀歩



今大会は、以前から交流のある東京都矢口消防団をお招きし、「特別区消防団可搬ポンプ操法」を披露していただきました。特別区の消防操法は、「基本操法」によりホース1本先の第二火点へ放水した後、「増加操法」でさらにホース1本先の第二火点に転戦し放水するより実践的なものです。見慣れない操法に観客からはどよめきに似た歓声が起こり、各団員は少しでも自分の知識や技術にしようと、食い入るように見取り訓練をしていました。

矢口消防団の操法大会は六月二十四日に開催

され、幸消防団の女性団員が操法を披露しました。

(詳細は本誌4ページ)



矢口消防団 男性チーム



矢口消防団 女性チーム

川崎市消防団操法大会

平成30年6月24日
北部市場卸売市場



第2分団 第3位
タイム 48.98 総合得点 79.4



第3分団 第8位
タイム 49.73 総合得点 69.5

- 指揮者 班長 鈴木盛樹
- 1番員 団員 吉岡 徹
- 2番員 部長 沼澤貴能
- 3番員 副分団長 吉岡雅之



- 指揮者 部長 遠山直樹
- 1番員 団員 直井 渚
- 2番員 班長 塩田 真
- 3番員 班長 尾畑佳宏



大会を終えて

今大会は、三位という結果で終わってしまいましたが、長きにわたる訓練の成果を発揮できたこと、今回の選手と共に出場できたことを誇りに思います。

悪天候の中での大会でしたが、雨を踏まえた資機材の準備の必要性など、分団にとっても今後への良い経験となった大会となりました。

第二分団、第三分団の選手の皆様、応援をいただきました各分団の皆様、ありがとうございます。

【第二分団 班長 鈴木盛樹】



矢口消防団操法大会

平成30年6月24日
キヤノン株式会社



多摩川を越え、矢口消防団、消防操法大会に幸消防団女性団員、ポンプ操法演技披露、この様な場を与えていただいた団長に感謝致します。

指揮者という大役、集まれ！番号！操作！収め！終わった。入団十七年、団員として初めて達成感、充実感を味わえたように思えます。

支えてくれた他の選手、女性団員の皆様さんは勿論、最後まで見捨てずに指導してくださいました。本団、第二分団の男性の愛の激を飛ばしながらも暖かく見守って下さり、選手一同感謝いたします。ありがとうございます。

指揮者 木村雅子

- 指揮者 班長 木村雅子
1番員 団員 宮島紀歩
2番員 団員 小森照美
3番員 団員 出口智子



平成30年度 水防訓練 (5/26 多摩川緑地小向町地区)

水防訓練は、台風や局地的集中豪雨等の出水期を迎えるにあたり、水難事故及び都市型水災等発生時に、幸区の防災関係機関が連携・協力し、効率的かつ的確に対応することで、水害による被害の防止及び軽減を図ることを目的として実施しました。

訓練メニュー

- 1 水難救助訓練
- 2 土のう作成訓練
- 3 水防工法及び都市型水災対策訓練
- 4 風水害発生時における関係機関との連携訓練



消防団指揮本部運用訓練

山梨県消防女子活躍推進セミナーで講師をしました

平成30年3月3日



幸女性消防団員の活動状況、女性団員の確保対策などの話をした後、グループワークでの意見交換が始まり、地域ごとの消防団の在り方を考えさせられました。災害に対し活動のシミュレーションをしていたつもりでしたが、やはり、現実に相違があると知らされました。富士山の噴火、富士川の氾濫などの想定をして活動している山梨県内の消防団員に対してお話しさせていただきましたが、私自身が消防団員という事をもう一度考え直すチャンスを与えていただいたと感謝しています。

【第四分団 団員 青木真弓】

今回は、資料配布やP C操作・撮影などを兼ねて見学いたしました。参加者の階級等は部長・団員や女性消防隊の隊長・副隊長などで女性団員の活動が盛んな山梨県ならではの感じます。

他地域の消防団活動を見聞することは、自分たちには当てはまらないと感じることもありますが、実際には条件が違うだけで、災害時のおおまかな対応の流れや考え方を知るには有意義な機会となります。

【第四分団 部長 小原 良】



日本消防協会幹部候補中央研修に参加してきました
平成30年1月31日～2月2日



今回の研修は、普段接する機会のない全国他地域の消防団員の方々より、地域ごとの消防団の課題を学ばせていただくことができ、また同年代の団員の方達との率直な意見交換と交流を通して、「消防団員」としての誇りと自覚を強く意識できた大変有意義なものとなりました。

特に、熊本の震災で自身も被害に遭われた団員の方の体験談は身に詰まるものがあり、発災した際に自分が置かれる状況を想像し、「何をすべきか」また「何ができるのか」を改めて考えさせられました。地方では消防団が地域の防火・防災の要であり、災害時の第一線です。それ故の意識の高さと持っている知識や技術の多さには感嘆しました。

また、全国的な課題となっている消防団員の不足も、我々が地域により積極的に関わり、「自助・共助」に対する住民意識を高めていくことで、同じ志を持つ仲間を増やしていくことができるのではないかとの意見には、全国の多くの団員が同じ思いで自分達の使命の一つとして取り組んでいくことを約束しました。震災や災害の記憶は時間が経つほどに薄まり、「誰かがやらなければならない」は次第に「誰かがやってくれる」という言葉に置き換えられます。そうならないためにも、今回の研修で学んだことを積極的に発信し、地域の防火・防災のリーダーシップをとれる人間として成長していきたいと思えます。

【第二分団 班長 吉岡 徹】

幸消防団活動状況(主なもの)

平成30年

- 4月29日 ポンプ性能検査
- 5月13日 第46回幸消防団ポンプ操法大会
- 26日 水防訓練
- 6月 3日 幸消防団幹部県外視察(5日まで)
- 24日 川崎市消防団操法大会
(第2分団、第3分団出場)
- 矢口消防団操法大会(女性団員参加)
- 7月 4日 宮前消防団との意見交換会
- 15日 警防技術基礎訓練



ポンプ性能検査



水防訓練



宮前消防団との意見交換会



川崎市消防団操法大会

今後の予定(案)

平成30年

- 8月中旬 大田区平和都市宣言
花火の祭典警備
幸消防団幹部視察研修
- 下旬 新入団員研修
- 9月上旬 幸区民祭警備及び広報活動
- 10月中旬 幸区秋の総合防災訓練
- 下旬 幸消防フェア・秋の火災予防運動
- 11月上旬 幸消防団幹部特別講習
- 12月下旬 年末火災特別警備

平成31年

- 1月上旬 幸地区消防出初式
- 下旬 文化財防火デー訓練
- 3月上旬 春の火災予防運動

第一分団(七月一日付け入団)
地元は幸区ですが、数年間川崎を離れていたこともあり、地域活動などに関わることはほとんどありませんでしたが、入団を機に様々な行事に携わりたいと考えていますので、よろしくお願ひいたします。
趣味 スポーツ観戦・アミューズメント
カー(興味のある方
はお尋ね下さい)



佐藤 安弘(39才)
(さとう やすひろ)



受賞

おめでとう

ごさいます

◎消防方長官表彰
永年勤続功勞章
(三月八日)

第一分団 分団長 細谷 三康

◎日本消防協会会長表彰 (三月六日)

竿頭銜(団体) 川崎市幸消防団

勤続章(三十年)

第三分団 部長 羽田 潔司

◎神奈川県知事表彰 (三月二十八日)

永年勤続優良消防団員(三十年)

第三分団 部長 羽田 潔司

◎神奈川県消防協会会長表彰

功績賞 (三月二十八日)

第一分団 部長 滝口 太志

第三分団 副分団長 成川 和男

勤続章(二十年)

第一分団 団員 服部 一延

第一分団 団員 守井 崇

第三分団 部長 水野 弘尚

第四分団 班長 小林 昭

第四分団 班長 佐藤 一晃



今年度幸消防署へ
着任された方々です

署長

庶務係長

予防係長

施設整備担当係長

警防第一課

警防課長

救急係長

加瀬出張所長

警防第二課

警防係長

調査係長

救急係長

田中 信一

吉田 和子

笹原 弘喜

山中 勝

北嶋 知巳

我妻 孝浩

加藤 高明

鳴海 雅昭

小坂 勇次

小澤 英祐

幸消防団幹部紹介

団長

高橋 克明

副団長

上田 常晴

副団長

蒲田 賢

庶務部長

塩澤 秀夫

警護部長

中西 善博

消防部長

松井 満

広報部長

中村 泰司

分団長紹介

第一分団長

細谷 三康

第二分団長

吉岡 雅之

第三分団長

首藤 幹夫

第四分団長

村石 勉

退団

永い間お疲れ様でした



本団 警護部長

後藤 重春 様

消防団員募集

幸消防団では新規団員を募集しています。

- 資格 幸区内在住、在勤の満18歳以上の健康な人
- ・特別職の公務員として活動中の負傷などは公務災害として補償されます。
- ・班長以上の階級に3年以上在職した団員は防火管理者の資格を得ることができます。

問合せ先 幸消防署予防課 TEL: 044-511-0119
FAX: 044-544-0119

編集後記

幸消防団だより六十二号をお届けします。
発行に当り、関係各位のご寄稿に深く感謝致します。

発行責任者 高橋 克明

編集 幸消防団広報委員会

広報部長 松井 満(旧)

第一分団 中村 泰司(新)

第二分団 生方 清

第三分団 坂村 雅子

第四分団 鈴木 幸一

遠藤 盛樹

三原 多恵子

菅原 幸子

青木 真弓